

四ツ谷駅外濠博物館

江戸の歴史的地形を体験する
土木的建築

[学部4年]
秋元 優介 Yusuke Akimoto

芝浦工業大学
デザイン工学部
デザイン工学科
都市デザイン研究室

■設計概要

四ツ谷駅の建替え再開発を仮定し、外濠の外郭斜面に沿うように駅舎と博物館を設け、谷地形を体験し歴史文化を知る土木的建築を計画する。

■対象敷地



駅周辺には様々な個性がある。駅舎は旧江戸城の外濠上に位置する。以前は江戸城内と郭外を結ぶ要衝であり、現在では文化施設や歴史的建造物が多く存在する。しかし、それら歴史や文化は埋没してしまっており、四ツ谷駅の利用者にはあまり認知されていない。

■提案

□濠と一体化

— 周辺環境との共生 —

折板構造の屋根により、濠と一体化したランドスケープ的なデザインとなる。東側の外濠の上の緑道からは、濠と一体化した駅舎が一望できる。

□地下鉄環境の改善

— 地上との繋がり —

南北を地下で繋ぎ移動性を高める。吹き抜けは光と風を地下に引き込み、地上との繋がりを強める。吹き抜けはシンボルにもなり、位置の把握を助ける。

□歴史的地形の体験

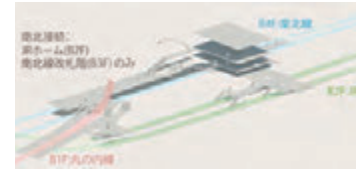
— 歴史文化に触れる —

駅舎や外濠という長い空間を体験する回廊のようなGallery空間。回遊性を向上させることで、外濠の歴史的地形を立体的に体験できる。

■コンセプト

- ①「濠と一体化」周辺環境との共生を目指す。
- ②「地下鉄環境の改善」地上との繋がりを生む。
- ③「歴史的地形の体験」四ツ谷の歴史文化に触れる場をつくる。

■駅舎現状



地上地下で3路線が複雑に立体交差しており、地下の南北線は地上との関わりが薄い。また、中央の新宿通りによって駅舎の南北が分断されている。それにより、駅前交通広場も分散している。北の跨線橋は自転車置き場と化しており、改善の余地が多く残る。

